

環境経営レポート 2022

第1版

対象期間 2022年4月1日～ 2023年3月31日

目次

1. 組織の概要	2
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	2
3. 環境方針（経営方針）	3
4. 実施体制と各課の役割	4
5. 環境目標及び活動実績	5
6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	7
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	8
8. 代表者による全体評価と指示事項	8



作成日 2023年 8月 21日
日邦電機株式会社

承認	管理責任者	作成
社長 '23.08.25 待岡	品証 '23/08/22 原	品証 '23/08/21 村上

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 日邦電機株式会社 本社
長野工場
茅野工場
- (2) 所在地 本社 〒142-0053 東京都品川区中延 1-11-6
長野工場 〒399-3303 長野県下伊那郡隼川町元大島 2954-6
茅野工場 〒391-0012 長野県茅野市金沢 5125
- (3) 代表取締役社長
待岡 誠
- (4) 環境管理責任者
品質保証（在 長野工場） 原 悠輔
- (5) 連絡先
本社 電話 03-3738-7106 FAX 03-3783-7108
長野工場 電話 0265-36-3131 FAX 0265-36-3132
- (6) 事業の規模
資本金 2,000万円
社員数 86名
設立 1954年 2月 1日
延床面積 本社 442m²
長野工場 2,425m²
茅野工場 170m²
売上高 1650百万円
- (7) 弊社ホームページと環境管理責任者のメールアドレス
<http://www.nippo-d.co.jp/>
y.hara@nippo-d.co.jp
- (8) 環境及び品質マネジメントシステムの認証・登録



2. 対象範囲（認証・登録範囲）

精密小型モータ、ギアドモーターの開発、設計、製造及び販売
精密加工部品の製造及び販売

3. 経営方針

経営理念を実現するための経営活動の方向性（指針）を示したものです。

日邦電機の経営方針は品質マネジメントシステムの方針と同一です。

- **お客様の期待とニーズに応えられる製品を市場に提供する**
品質第一をモットーに、お客様に満足していただける魅力ある製品とサービスを提供する
- **お客様に満足いただける品質・価格・納期を提供するために、継続的な改善活動を行う**
提供する製品やサービスの品質はもとより、会社の質・従業員の質を高める努力をし続ける
- **環境に関する法規制の遵守**
環境問題への取り組みを重要な経営課題の一つとして認識し、環境保護活動を推進する

<環境保全への行動指針>

当社は、産業機器用モータ、ギアヘッド、組立製品及び加工部品の生産活動に関わる環境への影響を認識し、環境経営マネジメントシステムを構築し、継続的な改善に努めます。

1. 環境目標・活動計画を定めて活動を推進します。
 - ①二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）
 - ・電力（工場、事務所）
 - ・灯油（ボイラー用）
 - ・自動車用燃料（社用車 ガソリン、軽油）
 - ②廃棄物排出量の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）
 - ・一般廃棄物（紙くず、段ボール）
 - ・産業廃棄物（廃プラ）
 - ③排水量の削減（水資源の保全）
 - ・水道水の使用量削減
 - ④化学物質の使用量の削減
 - ⑤環境配慮活動の推進
 - ・環境配慮製品の設計及び生産
 - ・グリーン購入・グリーン調達の実施
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組み状況を環境活動レポートにとりまとめ公表し、社内及び社会とのコミュニケーションに努めます。
4. 社員に必要な教育を行い、環境方針(経営方針)の周知と環境保全を意識した行動に努めます。

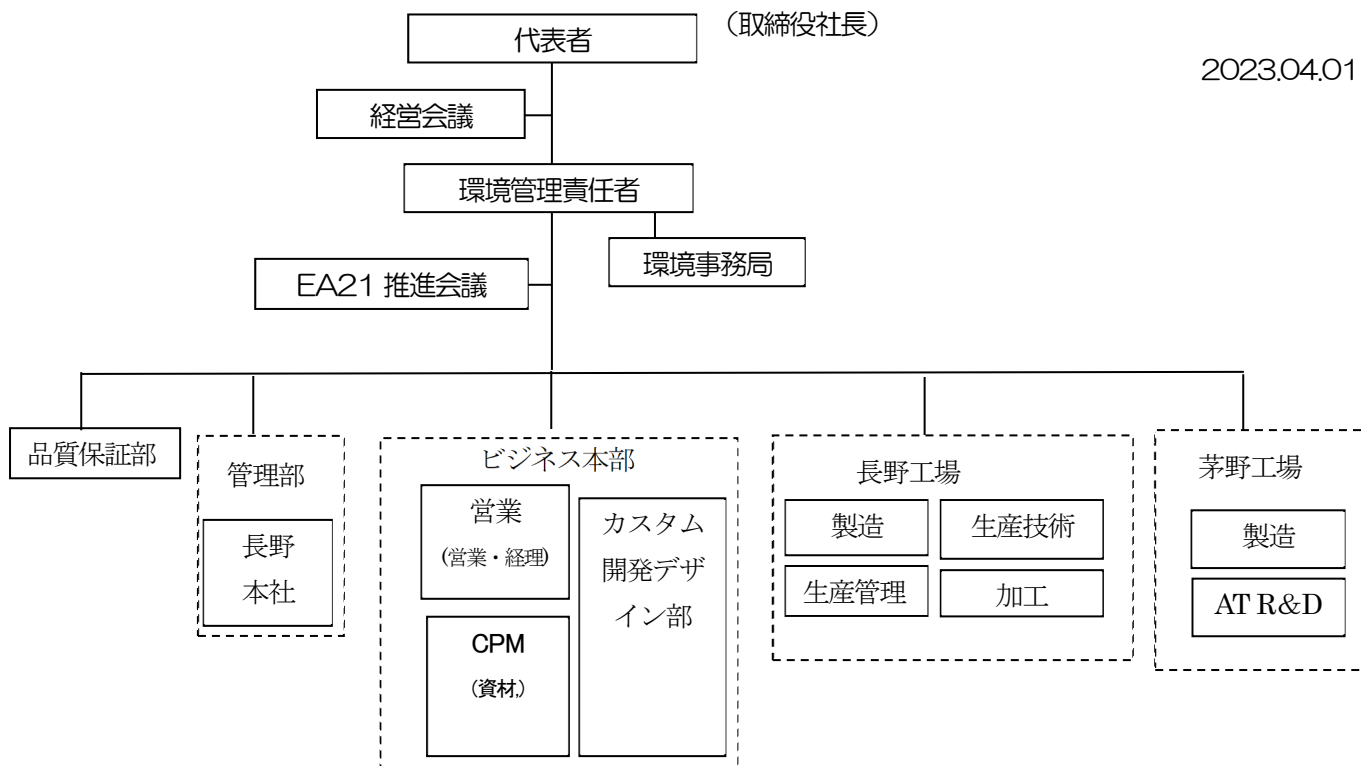
2022年4月1日

日邦電機株式会社 代表取締役社長 待岡 誠

4. 実施体制と各課の役割

当社の環境経営システムを運用するための組織と役割・責任及び権限は以下の通りです。

2023.04.01



役割	責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人・設備・費用・時間・技能技術者を用意 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標の設定を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、及び管理 環境関連法規制登録簿の承認 環境活動計画書の承認 環境教育訓練計画/実績表の作成 環境活動の取組み結果を代表者へ報告
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動全般の事務局 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書原案の作成 環境活動計画の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
EA21 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> 環境目標及び環境活動計画の審議と策定 月度進捗管理及び取組上の問題点の審議と処置・対策検討
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境方針・目標・活動計画の周知 自部門における活動実施及び達成状況の報告 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境目標及び活動実績

5.1 目標：【2019年度実績対比で2020年度～2022年度までの3年間で3%を削減】

2022年度の目標は2021年度実績に対して1%削減目標としました。但し、原単位（生産額、労働時間や燃費）による指標設定です。総量は増加設定となりました。また、コロナ感染予防しながら、環境対応を行っていくようにしました。

5.2 環境活動計画及び実績

(1) 目標を達成するための取組

- ① 使用電力削減による二酸化炭素排出量低減
 - ・冷房温度は28度、暖房温度は20度の徹底
 - ・電気のみめ切り、よしず日よけの設置継続
 - ・工場内の天井灯の間引き
 - ・照明器具LEDへの切り替え 部分計画実施
 - ・太陽光発電の運用
 - ・グリーン電気の採用
- ② 灯油使用量削減による二酸化炭素排出量の低減
 - ・ウォームビズ運動の展開
- ③ 社用車燃料使用量の削減による二酸化炭素排出量の低減
 - ・「エコドライブ10運動」の推進（ふんわりアクセル、アイドリングストップ等）
 - ・まとめ業務運転の実施（社用車の運行効率改善）
 - ・WEB会議の活用で出張削減
- ④ 廃棄物の発生抑制と分別
 - ・電子配布の促進（全社共有の電子フォルダに配布文書等を格納し、オープン化と共有化）
 - ・両面印刷の促進
 - ・ミスコピーの防止（印刷プレビューで印刷前に改ページ位置を確認）
 - ・使用済みコピー用紙の裏面利用
 - ・繰り返し利用可能な通箱化の推進
 - ・梱包材（ダンボール・緩衝材・ビニール袋等）の再利用の促進

(2) 環境方針に基づく環境配慮活動

- ① 環境配慮設計の実施（環境配慮部材の採用）
- ② 新製品開発ステップ管理で環境配慮チェック実施
- ③ 「環境教育」の実施（廃棄場所の点検、指導教育）5S点検

(3) 節水

- ①節水の推奨—水道洗い場へ「節水」表示板の設置
- ②水道水使用量の監視（異常発見時の是正）

(4) その他の取組み

- ①エアコンプレッサーのメンテナンス清掃の実施でドレン排水のクリーン化とドレン水の低減。簡易型油分吸着方法で河川の水質汚濁防止を継続
- ②太陽光発電の稼働状況の確認

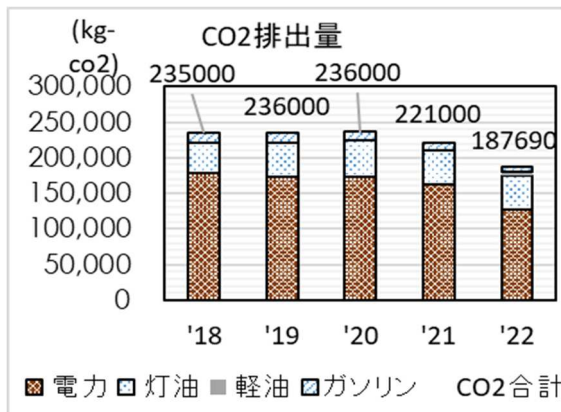
5.3 環境目標と実績

(1) 活動実績

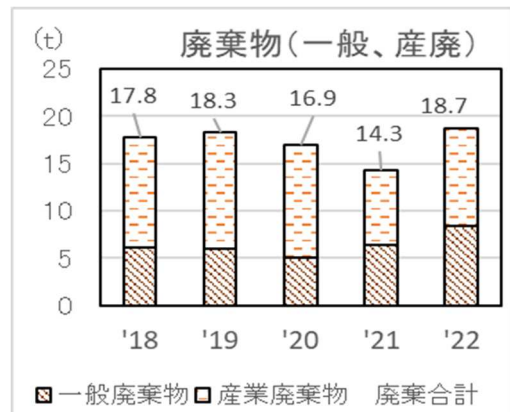
- ① 環境パフォーマンスの数値目標は、2019年度の実績を基準に稼働状況を考慮して2022年度の活動目標を設定し、活動結果を評価しました。（'19年度に対し3%減）
- ② 今年度も指標評価を実施し、環境活動の結果を総量と原単位の両方で評価できるように目標設定をして活動しました。
- ③ CO₂の総排出量削減は、主に電力で、灯油・ガソリン使用量削減に活動を実施しました。又、廃棄物の排出量削減を課題として全社員で環境負荷の削減活動に取り組みました。
- ④ 化学物質使用量の削減については、新製品開発ステップ管理におけるチェック事項に指定し、製品への有害化学物質の使用量削減に取り組みました。
- ⑤ 生産に使用している有機溶剤や切削油の含有PRTTR対象化学物質の使用量の把握のため、購入量の集計を継続しました。

(2) 活動実績評価 全社実績（本社、長野工場、茅野工場の合計）

CO₂ 排出量

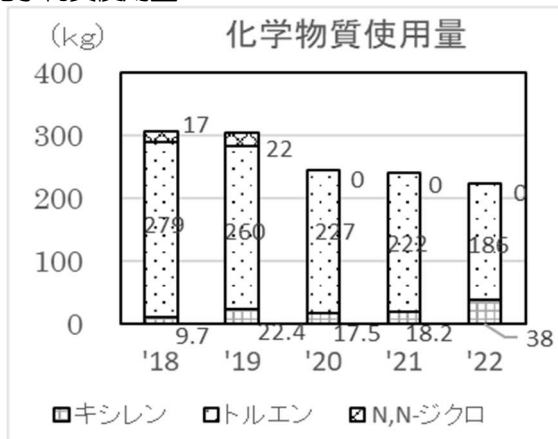


廃棄物

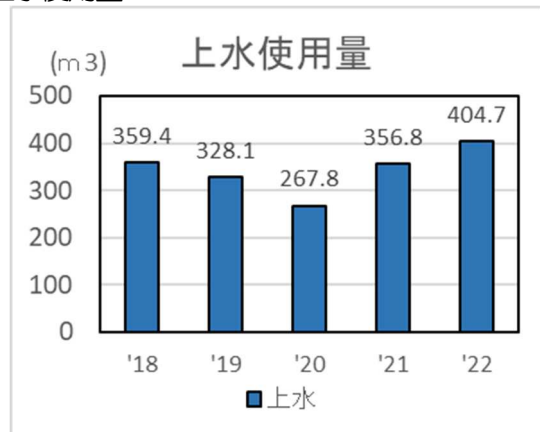


※電力のCO₂排出量の算出には、購入電力会社2020年実排出係数0.511 kg-CO₂/kwhを使用

化学物質使用量



上水使用量



結果まとめ

- CO₂ 排出量—太陽光発電(21/5 導入)22年度は稼働率改善ができたため効果が出ました。
2022.4月から、茅野工場の電気がCO₂フリーになったことから削減が進んだ。
他に社用車燃料は若干上昇。WEB会議の実施で社用車使用頻度削減継続。
- 化学物質、廃棄物（梱包材）——化学物質は削減。梱包材は増加輸入部品での梱包材増加削減困難の状況
- 上水使用量——増加。コロナ感染防止のため、手洗いの徹底は昨年同様継続しています。
工場パイラー設備不具合から漏水もれあり増加要因となっています。設備は修復でき正常に動作できています。

6. 環境活動計画の次年度取組内容

(1) 総合評価

① 目標達成の評価

◇ EA21取組

- 継続となりますが、分別の徹底、状況確認と毎月の実績報告で従業員への啓蒙を図ってまいりました。

今年度(22年度)は太陽光発電の効率改善ができたこと、CO2フリーの電気(茅野工場)によりCO2削減効果が出ました。継続節電をPRし太陽光発電の稼働状況を確認していきます。

◇2023年度への取組について

- EA21の経営管理システムである「方針展開」へ環境活動を組み込み、成果に繋げるよう進化した仕組みを再構築します。5S活動と連携していきたいと考えています。また、2021年度から取り組んでいますが、LED化は未実施。次年度継続検討してまいります。冷房設備の老朽化も懸念、更新の検討も必要となってきています。
- 昨年度設備NC加工機1基、社用車1台の追加がありましたが、全社ではCO2の削減ができました。長野工場太陽光の効率皆瀬、茅野工場グリーン電気導入が貢献しています。今後も節電を実践してまいります。
- 事業及び活動実績の評価方法について
自組織の活動が生産量、販売状況や気候変動の影響を受けることを理解し、使用量評価と指標評価を行い、削減状況を把握し改善してまいります。

---2023年度計画---

環境方針	環境目標項目	責任部門 責任者	基準値(2022y)		年度目標・達成手段			
			稼働時間(h)	2,165 h	2023年度(基準年比:生産予定額 7%増)	2024年度(基準年比:生産予定額 33%増)	2025年度(基準年比:生産予定額 60%増)	
排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	総務	稼働時間(h)	2,165 h	1700	1800	2000	
			売上額(百万円)	1,650 百万円	1,700	1,800	2,000	
	・電力使用量の削減 CO2排出係数 0.424 (本社占有約5%長野係数を採用)	313.866	開発・三石J 本社・吉川T 茅野・伊藤S	排出量(kg-CO2)	187,685	170	180	200
				指数(kg-CO2/百万円)	114	113 kg-CO2/百万円	111 kg-CO2/百万円	110 kg-CO2/百万円
	・灯油使用量の削減 CO2排出係数 2.492	生産・福与FM	燃料使用量(L)	5,003	5,107 L	5,349 L	5,887 L	
				燃費(km/L)	15.5	15.5 km/L	15.5 km/L	15.5 km/L
	・社用車燃費使用量の削減 合計社用車数 4台	営業・松村J	CO2排出量(kg-CO2)	12,042	13,277 kg-CO2	13,908 kg-CO2	15,305 kg-CO2	
				合計	5,003	5,107 L	5,349 L	5,887 L
	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量の削減	総務・庄子 本社・吉川 茅野・矢澤FM	総排出量(kg)	8,525	9,321 kg	9,764 kg	10,820 kg
				指標(kg/百万円)	5.33	5.48 kg/百万円	5.42 kg/百万円	5.20 kg/百万円
再資源化の推進	リサイクルー紙 (リサイクル) (フナボム・雑誌・コピー用紙、他)	総務 庄子 本社 吉川 茅野 矢澤FM	kg	4,484	4,623 kg	4,942 kg	5,329 kg	
			kg/百万円	2.72	2.72	2.69 kg/百万円	2.68 kg/百万円	
水資源の削減	水道水使用量の削減 (上水)	総務・庄子	使用量(m3)	843	854	854	854	
			指標(m3/h)	0.39	0.39	0.39	0.39	
環境配慮活動	化学物質使用量の削減 MEKの削減 ワニス・シンナー使用量監視	生産 福与FM	MEK、エチルなど溶剤	購入量(kg)	588	600 kg	629 kg	692 kg
			購入量(kg)	588	600 kg	629 kg	692 kg	

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境管理責任者が環境関連法規（詳細は下記）の順守状況を2022年3月までに確認した評価した結果遵守されていることを確認致しました。

適用法規制	監視結果・評価	'22年度実績
廃棄物処理法	産廃業者の取引契約書及び産廃運搬許可書の有効期限 マニフェストの受理、県へのマニフェスト交付状況報告	違反事項はありませんでした。
フロン排出抑制法	廃棄したフロン使用設備はありませんでした。 自主点検における、設備の異常点は見られませんでした。	異常はありませんでした
消防法	社内巡視、書類監査で法への適合を確認しました。	問題ありませんでした。
水質汚濁防止法	2022./8/25 水質検査 -pH、浮遊物BOD、n-ヘキサン 最終桁オイルトラップの点検—異常が無いことを確認しました。	規制値以下でした
有機則	洗浄室の掲示、溶剤の保管等遵守されていました。	異常ありませんでした。
家電リサイクル法	・冷蔵庫1台 2022. 8 リサイクル処理実施しております。	適正処理を確認致しました。

尚、関係当局から過去3年間に違反の指摘、内部、外部の利害関係者からの訴訟等はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と指示事項

EA21 推進会議の中で、環境目標及び活動計画の実績について協議し、環境負荷低減活動を実施してき、目標達成することができました。茅野工場は1年間の実績から、目標値を設定し評価していきます。

次年度も、新機種立ち上げが計画されていることから、管理責任者に以下の内容を次年度計画に盛り込んだ重点的な活動を指示しました。

(1) 環境方針について

環境方針は、「エコアクション21ガイドライン2017年版」に準拠し運用している。

環境方針は経営方針に統合しました。次年度も変更の必要性は無いと判断します。

(2) 目標・活動計画と実績について

①環境目標の未達項目について

- ・未達原因の究明と対策を確実にこなうこと。

② 環境配慮設計及び生産を積極的に推進

- ・製品開発ステップ管理のデザインレビューで環境影響物質管理を確実に実施のこと。

③ 環境教育

- ・ゴミ分別等、教育/指導/評価を定期的に行い、ルール順守の継続すること。

(3) 環境経営システムの各要素について

環境教育の推進

新人含む従業員の教育は個別教育でなく、生産活動の中で関連し継続した教育となるようなシステムにしていくこと。

最後までお読みいただきありがとうございました。

継続的に改善を進めたいと存じますので、今後ともよろしくお願い致します。

以上